

特別法要について

特別法要事務局局長 押 小 路 蓮 円

高田派本山では、令和五（二〇二三）年五月二十一日より二十八日までの八日間、特別法要と名付けて、

開山親鸞聖人御誕生八百五十年奉讃法会

立教開宗八百年奉讃法会

中興真慧上人五百年忌奉讃法会

聖徳太子千四百年忌奉讃法会

以上の四法会を、「弥陀のよび声『なもあみだぶつ』を聞いてゆこう」を基本テーマに、厳修致します。

さて、現在の自分自身を顧みれば、物・情報が満ちあふれその中に埋没して、悩み苦しんでいる私があります。また格差社会の顕在化によって、隣の人と比較して羨み・妬む私があります。その煩惱にまみれた私の姿をご覧になって、必ず救わん、との弥陀の本願を、『なもあみだぶつ』の御名に込めて喚び続けて下さる、その声に応えてまいりたいと思います。この法要の記念事業として、御法主殿の「善光寺と親鸞」を刊行させていただきました。また、本山が八百年に亘り連綿と受け継いでまいりました法宝物を次の世代に伝えるために老朽化しました宝物館を建て替えます。

この来るべき御勝縁に本山・別院・御寺院が一体となって取り組み、老若男女皆様に御参詣いただける法要となるよう、ご協力をお願い致します。

宗 達

宗 達 第一一三七号

真宗高田派宗制七十九条第三項により 令和元年十一月六日第百六十八臨時宗議會を召集せらる

令和元年十月二十三日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 達 第一一三八号

法主殿来る令和二年三月二十一日午後一時三十分より津市稲葉町 涅槃寺聞信講に御親教相成る

令和元年十一月十七日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 告

宗 告 第一〇七七号

来る令和五年五月二十一日より二十八日まで特別法要執行相成る

五月二十一日より二十四日

開山親鸞聖人御誕生八五〇年

立教開宗八〇〇年

五月二十五日より二十七日

中興上人五〇〇年忌

五月二十八日

聖徳太子一四〇〇年忌

令和元年十一月七日

宗務総長	大僧都	増田修誠
総務	中僧都	藤谷知良
総務	中僧都	眞置和徳

宗 告 第一〇七八号

来る令和二年一月一日より同三日まで修正会執行相成る

一日 御繙御書拝読 維 那 水 沼 秀 明

令和元年十一月二十七日

宗 告 第一〇七九号

左記の通り報恩講執行相成る

一、日 時 令和二年一月九日逮夜より同十六日日中まで

逮 夜	九日のみ十二時三十分	(洪鐘撞止)
晨 朝	午前七時	( 同 )
日 中	午前十時三十分	( 同 )
逮 夜	午後二時	( 同 )
初 夜	午後四時三十分	( 同 )
後 夜	午後十一時	(洪鐘なし)
御参廟	十六日 午前九時	(洪鐘九吼)

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣・紋章五条袈裟・差袴着用

一、参勤者には非時料下さる

令和元年十一月二十七日

宗 告 第一〇八〇号

来る令和二年二月一日午前十時年賀式執行相成る  
令和元年十一月二十七日

宗務総長  
大僧都  
増田修誠  
宗務  
中僧都  
藤谷知良  
総務  
中僧都  
眞置徳

宗務総長  
大僧都  
増田修誠  
宗務  
中僧都  
藤谷知良  
総務  
中僧都  
眞置徳

任 免

令和元年十月二十三日

第百六十八臨時宗議會宗務委員を命ずる

監正局長

佐藤 唯信

令和元年十月十九日  
三重県津市一志町庄村  
任 満昌寺副住職

満昌寺衆徒

瀧

雄真

副住職任命

第百六十八臨時宗議會書記を命ずる

録事

村上 英俊

録事

塩崎 慶脩

寺格堂班

令和元年十二月三日

令和二年報恩講一月初夜式文代読を命ぜらる

維那助勤

大僧都

清水谷正尊

令和元年十月二十三日  
列 其寺寺格堂班

中老一等

老分二等、老分一等

令和二年報恩講一月十一日初夜式文代読を命ぜらる

維那長

大僧都

玉樹 真祥

三重県津市雲出長常町

三重県第五組

光徳寺

令和二年報恩講一月十三日初夜式文代読を命ぜらる

維那

中僧都

清水谷亮雅

令和二年報恩講一月十四日初夜式文代読を命ぜらる

維那長

大僧都

玉樹 真祥

布教任命

納骨堂法会説教(日中)

一一・三 権中僧都 松山 智道  
 一一・四 権大僧都 真昌 智海

秋法会説教(日中)

一一・五 少僧都 千草 篤昭  
 一一・六 権大僧都 浦井 宗司  
 一一・七 律 師 大河 戸悟道  
 一一・八 律 師 隆 妙灑  
 一一・九 少僧都 花山 光瑞  
 一一・一〇 律 師 安藤 純海

十一月御影堂常在説教(晨朝)

一一・一 中僧都 青木 義成  
 一一・二 権大僧都 戸田 栄信  
 一一・三 権中僧都 田中 明誠  
 一一・四 律 師 隆 妙灑  
 一一・五 権中僧都 藤田 正知

一一・六  
 一一・七  
 一一・八  
 一一・九  
 一一・一〇  
 一一・一一  
 一一・一二  
 一一・一三  
 一一・一四  
 一一・一五  
 一一・一六  
 一一・一七  
 一一・一八  
 一一・一九  
 一一・二〇  
 一一・二一  
 一一・二二  
 一一・二三  
 一一・二四  
 一一・二五、二六  
 一一・二七  
 一一・二八

権中僧都 田中 明誠  
 少僧都 岡 知道  
 権中僧都 里榮 秀教  
 権少僧都 真置 信海  
 律 師 北畠 心淳  
 権中僧都 中村 宜成  
 少僧都 山中 真論  
 権中僧都 鷲山 了悟  
 中僧都 戸田 恵信  
 大僧都 上田 隆順  
 中僧都 佐藤 弘道  
 大律師 高島 光憲  
 中僧都 青木 義成  
 律 師 水沼 碧水  
 権少僧都 真置 信海  
 権中僧都 中村 宜成  
 大律師 北畠 大道  
 律 師 田中 唯聴  
 大僧都 上田 隆順  
 権大僧都 浦井 宗司  
 少僧都 上田 英典  
 少僧都 山中 真論



一一・二九 權中僧都 安藤 章仁  
一一・三〇 律 師 若林 妙百

十一月御影堂常在説教

一一・一五 速夜 權少僧都 高藤 英光  
一一・一六 日中 權少僧都 高藤 英光

中興上人御正当法會説教(速夜・日中)

一一・一九 晨朝 少僧都 山中 真諭

一一・一〇 晨朝 權大僧都 真昌 智海

日中 權中僧都 中村 宜成  
日中 權中僧都 松山 智道

十二月御影堂常在説教(晨朝)

一一・一 大律師 北畠 大道

一一・二 中僧都 戸田 恵信

一一・三 權中僧都 田中 明誠

一一・四 權中僧都 里榮 秀教

一一・五 權中僧都 藤田 正知

一一・六 中僧都 青木 義成

一一・七 權中僧都 生桑 崇等

一一・八 大僧都 上田 隆順

一一・二二、二四

一一・三一

中僧都 佐藤 弘道  
權中僧都 中村 宜成  
少僧都 岡 知道  
律 師 隆 妙灑  
律 師 田中 唯聽  
律 師 北畠 心淳  
律 師 古芝 智泉  
權中僧都 田中 明誠  
權少僧都 真置 信海  
大僧都 上田 隆順  
權中僧都 安藤 章仁  
律 師 山中 久行  
權大僧都 浦井 宗司  
少僧都 山中 真諭  
律 師 隆 妙灑  
少僧都 上田 英典  
權少僧都 真置 信海  
權大僧都 東雲 正乘  
中僧都 青木 義成  
權中僧都 鷲山 了悟

十二月御影堂常在説教（速夜・日中）

一二・七 速夜 権少僧都 高藤 英光  
 一二・八 日中 権少僧都 高藤 英光  
 一二・一五 速夜 大律師 高島 光憲  
 一二・一六 日中 権中僧都 村上 英俊

高田慈光院 月例法会

一一・一〇、一六、二六 権少僧都 真置 信海  
 一二・一〇、一六、二六 律師 降 妙灑

報徳園 月例法会

一一・一五 権中僧都 村上 英俊  
 一二・一五 権大僧都 藤山 眞哉

敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和元年 十・九 三重県津市片田町 来迎寺前坊守 鷹阪キミエ

十一・二十三 愛知県安城市高木町 眞印寺前坊守 大岡 初乃

十一・三十 三重県多気郡多気町 長盛寺住職 三室 廓堯

贈 少僧都 十二・九 三重県津市河芸町南黒田 隨宏寺住職 在田 勇真

贈 権少僧都



宗門のお知らせ

報恩講説教一覽表 (令和二年)

日(曜)	晨朝(午前七時)	日中(午前十時三十分)	速夜(午後二時) (九日十二時三十分)	初夜(午後四時三十分)	大講堂十一時三十分
九日(木)			律 師 田中 唯聴	中僧都 佐藤 弘道	
十日(金)	中僧都 藤井 徳雄	権少僧都 真置 信海	律 師 隆 妙灑	権中僧都 中村 宣成	権大僧都 松田 信慶
十一日(土)	少僧都 岡 知道	権中僧都 金森 顕宏	権大僧都 浦井 宗司	権中僧都 鷲山 了悟	律 師 安藤 純海
十二日(日)	権中僧都 生桑 崇等	中僧都 戸田 恵信	権中僧都 松山 智道	律 師 若林 妙旨	律 師 真置 美徳
十三日(月祝)	権中僧都 安藤 章仁	権中僧都 田中 明誠	律 師 大河戸 悟道	権中僧都 甲斐 秀教	権中僧都 島 義厚
十四日(火)	律 師 水沼 碧水	少僧都 梅林 久高	少僧都 花山 光瑞	少僧都 千草 篤昭	中僧都 藤澤 眞純
十五日(水)	権中僧都 藤田 正知	御 親 教	権大僧都 鈴木 紀生	権大僧都 高林 亮英	権大僧都 藤山 真哉
十六日(木)	少僧都 長谷部 行雄	権大僧都 真喜 智海			権中僧都 安田 真源
復 演 (御影堂御親教後) 十五日(水) 鑑学 栗原 廣海 特別講演 (如来堂五時) 十三日(月祝) 擬講 芳川 賢史 十四日(火) 擬講 島 義厚					

十日、十四日の速夜は全席椅子席となります。

## 宗門のお知らせ

### 報恩講の諸行事

一月九日(木)

- ・高田学苑参詣
- ・高田幼稚園参詣

九時

十時すぎ

一月十日(金)

- ・高田保育園参詣
- ・お七夜坊守会

十時

一、受付

十一時

宗務院第一会議室

一、講演

十二時三十分～十三時三十分

宗務院第一会議室

講師

高田派鑑学

清水谷正尊 師

一、参拝

十四時～十五時

御影堂

一月十一日(土)

- ・お七夜高田派青年会

一、研修

お寺の取り組み紹介

講師

名古屋市 久遠寺副住職

高山信雄 師

一、受付

十一時

宗務院一階

一、開会式

十二時五十分

宗務院第一会議室

一、研修

十三時

宗務院第一会議室

宗門のお知らせ

一、速夜出勤 十四時  
 一、研修 十五時  
 一、初夜出勤 十六時三十分  
 御影堂  
 宗務院第一会議室  
 御影堂

一月十二日(日)

・お七夜子ども大会

一、受付 十二時  
 一、式典 十三時  
 宗務院二階ホール  
 宗務院第一会議室

・お七夜婦人連合会

一、式典 十二時～十二時三十分  
 一、講演 十二時三十分～十三時  
 御影堂

一、講演 「いのちの尊厳」  
 講師 津市 善休寺 住職  
 千草篤昭師

一月十三日(月・祝)

・特別講演

一、講演 九時  
 一、講演 「解脱の光輪きはもなし」  
 講師 津市 報恩寺住職 擬講 芳川賢史師  
 如来堂

宗門のお知らせ

・新成人の集い

一、受付 九時～十時三十分

宗務院一階

一、参拝 十時三十分

御影堂

一、つどい 十一時三十分

桐鳳書院

・責任役員会

一、受付 十一時

御影堂前

一、大会 十一時四十五分～十二時三十分 御影堂

一月十四日(火)

・特別講演

一、講演 九時

如来堂

一、講題 「親鸞聖人のお念仏

「法然上人のお念仏を通じて」

講師 岡崎市 聖洞寺住職 擬講 島 義恵 師

・他山御焼香 十時

一月十五日(水)

・高田短期大学参詣 十時

・お七夜婦人連合会初夜参詣 十六時三十分

・白塚通夜講(ししこ念仏) 十九時

宗門のお知らせ

・通夜念仏  
・後夜

二十時三十分  
二十三時

一月十六日（木）

・御参廟

九時

一月九日～十六日

献書展

大玄関廊下

一月九日～十六日

ののさま展

御対面所

一月十日～十五日

生花展

山内休憩所

一月九日～十六日

安楽庵見学

茶所

九日

十三時

十日～十五日

十時・十三時

十六日

十時

一月九日～十六日

教団連合「真宗十派報恩講巡り」スタンプラリー

境内テント

一月十二日・十三日

三重県若手僧侶の会「お七夜子ども広場」

境内テント

一月十五日

国宝御影堂特別拝観 十二時三十分～十三時三十分 御影堂

## 第三十九回

### 坊守・婦人会合同研修会報告

十月二十八日・二十九日の二日間「東本願寺」をテーマに坊守・婦人会合同研修会が開催されました。両日とも好天に恵まれ百名を超える人が参加されました。

二十八日は高田会館ホールで開会式の後、バス三台に分乗して京都に向かいました。

ザ・ソウドウ東山京都でイタリアン料理を味わった後、東本願寺（大谷本廟）へ向かいました。

東本願寺では参加者を二班に分けて、職員の方から両御堂、白書院、能舞台、黒書院、宮御殿など普段は見る事が出来ない場所まで丁寧にご案内いただきました。

続いて二百mほど歩いて東本願寺の飛地境内地、池泉回遊式の庭園地涉成園（枳穀邸）を訪ねました。わざわざご同行いただいた職員の方が、庭園の隅々まで案内してくださりました。

二十九日は四日市市正泉寺住職 北島恒陽師を講師に「真宗のあゆみ 高田派のあゆみ」というご講題でお話し頂きました。

前半は歴史を、後半は法話と分けて話してくださいましたので、長時間にわたるにもかかわらず、参加された方々は熱心に聞き入っていました。

## 第六十九回

### 檀信徒研修会報告

第六十九回檀信徒研修会が去る十月二十三日（水）に開催され、約八十名のお同行様にお集まりいただきました。

開会式は御影堂で執り行い、法主殿よりお言葉をおいただきました。

続いて明通寺住職 佐波真教師より「高田の歩み」、称名寺住職 北畠大導師より「高田の作法」をお話しいただきました。

その後、会場を高田会館ホールに移して、「お



浄土」をテーマに青巖寺住職 清水谷正尊師にお話をいただきました。

午後は六つの会場に分かれて分散会を行い、午前に聴講した話を中心に参加者からいろいろな質問や意見が出され、助言者の方々が丁寧に説明していただきました。

今回も特別拝観を行いました。御影堂中陣からお花部屋、大玄関、お対面所と回りました。

なお、今回の檀信徒研修会にご協力頂いた方々は左記のとおりです。(敬称略 順不同)

司 会	古芝智泉	青木義成	堅田光英
助言者	花山光瑞	島 義恵	安田真源
	福澤秀倫	戸田恵信	岡 知道
	里榮秀教	鈴木紀生	浦井宗司
	松田信慶	金森顕宏	水沼秀明
	若林妙百		
隆 妙灑			

#### 第四十回

### 住職補任研修会実施のお知らせ

標記の件につきまして、住職・住職代務者・副住職規程(宗規第十七号)により、住職補任研修を受講することが住職及び副住職補任申請の必修条件です。

住職及び副住職拜命を予定の皆様は、早めに受講いただきますようご案内いたします。

#### 講習予定日

令和二年  
二月二十二日(土) 十二時頃～(泊)  
二十三日(日) 十二時十五分頃、解散予定

#### 研修内容

- ・ 真宗教義と高田派の歴史
- ・ 住職道、布教道
- ・ 宗教法人法
- ・ 寺院規則
- ・ 声 明
- ・ 法式作法

## 宗門のお知らせ

・現状と課題

申込み方法

指定の申込書を令和二年一月三十一日までに

本山宗務院教学課宛に郵送、

FAX (〇五九一二三二一四一四)

メール (kyo-gaku@senji.or.jp) にお申し

込み下さい。

定員三十名になり次第受付終了といたします。

研修費用

一五,〇〇〇円 受講日の当日、受付へお持ち下

さい。

研修日の宿泊については宗務院で予約いたします。

一月一～三日 修正会

一月九日～十六日 報恩講

一月九日～十六日 お七夜献書展

一月十日 お七夜坊守会

一月十一日 お七夜高田派青年大会

一月十二日 お七夜婦人連合会

一月十三日 お七夜子ども大会

一月十三日 新成人の集い

一月十三日 責任役員会

一月十五日 お七夜婦人会初夜参詣

本山行事予定

(二月・二月)

一月一～三日

一月九日～十六日

一月九日～十六日

一月十日

一月十一日

一月十二日

一月十三日

一月十三日

一月十五日

## 下付金のお知らせ

平成二十五年度分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたしました。

(令和元年五月三十一日付)

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五か年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意ください。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。



## 高田短期大学 科目等履修生 募集要項

科目等履修生制度は、大学に入学して学ぶことはできないが、時間の余裕を見つけて、関心や疑問のある分野について専門的に学びたいという方々のために設けられる制度です。本学では、特に仏教学・真宗学を、篤学の方々に広く学んでいただくことを主目的にしています。

制度上、ゼミナールや、実習系統の科目を除く一般の講義科目はどれも履修可能ですが、特に上記の目的にそって、真宗高田派教師資格取得希望者が指定科目の単位を修得すれば、教師検定講習Ⅰにおける該当科目の履修が免除されます。

### 記

#### 一. 設置科目

仏教学Ⅰ（仏教学）

仏教学Ⅱ（真宗学）

※開講時期・曜日・時限等の詳細については教務課までお問合せください。

- いずれも半期 15 週の設置科目で、修得単位数は 2 単位。上記の科目の中から、自由に選択して受講できる。1 年間に 2 科目全てを履修することも可能。
- 同一科目で週に複数回開講される科目については、どれを選択してもかまわない。
- 上記の科目の単位を修得すると、真宗高田派の教師検定講習Ⅰにおける該当科目の履修が免除される。
- 上記以外の科目（ゼミナールや実習系統の科目を除く一般の講義科目）についても履修可能である。

#### 二. 出願資格

- 高等学校を卒業した者、または高等学校卒業者と同等以上の学力を有すると認められる者。

### 三. 出願手続

出願手続は、次の書類に入学検定料を添えて教務課に提出すること。

#### 出願書類

- 科目等履修生入学願書
- 履歴書（市販の用紙・写真添付）
- 最終学校の卒業証明書
- 住民票
- 合否通知用封筒

（長形4号 返送先記入の上、84円切手添付）

（出願希望者は、入学願書用紙を直接教務課へ請求すること）

### 四. 入学検定料 10,000円

### 五. 出願期間 令和2年3月2日（月）～3月12日（木） 〔窓口受付期間 月～金 9時～16時 （祝祭日は除く）〕

### 六. 出願先 高田短期大学 教務課 選考結果については、3月末に通知する。

### 七. 納付金

- 入学金 10,000円
- 授業料 1単位につき10,000円  
（前記の科目は、2単位であるから、1科目20,000円となる）

### 八. 入学手続

- 検定合格者は、速やかに上記納付金を高田短期大学に納付しなければならない。

### <お問い合わせ先>

- 教師検定との関連等について：真宗高田派宗務院  
（〒514-0114 津市一身田町2819 TEL059-232-4171）

- 履修について：高田短期大学教務課  
（〒514-0115 津市一身田豊野195 TEL059-232-2310）

高田短期大学

# 令和2年 得度式 執行日 住職拝命式

真宗高田派宗務院

## 得 度

得 度 式	得度研修(前日)	願書受付期間
3月27日(金)	3月26日(木)	元年11月11日～2年2月27日
7月27日(月)	7月26日(日)	2年 2月28日～ 6月27日
10月10日(土)	10月 9日(金)	6月28日～ 9月10日
12月10日(木)	12月 9日(水)	9月11日～ 11月10日

- 得度式の前日に研修を行います。
- 得度願書の受付は随時行っておりますが、受付時期により得度執行日が決まります。
- 得度式は黒衣・墨袈裟(本山指定のもの)にて執り行います。衣体の確認を願います。
- 願書受付締め切り後に詳細事項を得度希望者あてに送付いたします。

## 住職拝命

拝 命 式	願書受付期間
3月27日(金)	元年11月11日～2年2月27日
7月27日(月)	2年 2月28日～ 6月27日
10月10日(土)	6月28日～ 9月10日
12月10日(木)	9月11日～ 11月10日

- 住職補任申請の受付は随時行っておりますが、受付時期により拝命日が決まります。
- 拝命式には黒衣・五条(身分堂班衣体)にて執り行います。衣体の確認を願います。
- 願書受付締め切り後、拝命予定者あてに詳細事項を送付いたします。
- 住職及び副住職を拝命される方は、事前に必ず「住職補任研修会」を受講しておいて下さい。尚、住職代務者及び副住職の拝命は随時の拝命となります、お問い合わせ下さい。

※執行日は本山の諸事情により、変更・中止になる場合がございます。

あらかじめご了承下さい。

※必要書類の請求・詳細は本山宗務院庶務課までお問い合わせ下さい。

※衣体の貸し出しは行っておりません。各自でご用意ください。

真宗高田派共済会のご案内

●全寺院対象の共済制度●

真宗高田派共済会運営規程による各種制度

○見舞金

- ・本堂全焼及び全壊 100万円
- ・本堂半焼及び半壊 60万円
- ・庫裏全焼及び全壊 60万円

\* 災害を証明する書類が必要

- ・境内地並境内建物が災害を被った時は、2万円をお見舞いする  
(追加されました)

\* 被害総額が100万円以上の場合となります

○祝金

- ・本堂新築及び改築 60万円
- ・本堂を除く境内建物の新築および改築 10万円

\* 工事費が1千万円以上の場合となります

\* 高田派代表役員が発行した新築・改築の承認書と  
工事契約書の写しが必要

○香料(住職の死亡から6ヶ月以内に申請のこと)

在任期間により給付金が異なります

- ・住職在任40年以上 50万円
- ・住職在任30年以上40年未満 40万円
- ・住職在任20年以上30年未満 30万円
- ・住職在任10年以上20年未満 20万円
- ・住職在任10年未満 10万円

○住職退職慰労金(退職から6ヶ月以内に申請のこと)

上記死亡の場合を適用する

○真宗教学奨学金(毎年4月末日までに申請のこと)

- ・高等学校生及び真宗各派の専修学院生 月額 2万円 若干名
- ・大学生及び大学院生 月額 4万円 若干名
- 月額 8万円 若干名  
(追加されました)

○奨励金(毎年4月末日までに申請のこと)

共済会が指定した学校学部にて入学したときに

4万円を支給します。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当までお尋ねください。

真宗高田派共済会 真宗高田派宗務院内

電話 059-232-4171 FAX 059-232-1414

鍵長は  
仏教の歴史と共に 幾百年  
優良な品質と卓抜せる技術の所有者  
鍵長は  
仏教工芸 有識故実の伝承者の  
誠意の店の 世評にたがわず  
鍵長は  
皆様のご用命をお待ち致して居ります

高田本山御用達

# 鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路通正面東

TEL (075) 371-0854 8181

FAX (075) 344-2701 振替口座：京都7-972番

井

法衣・仏具製造及び販売

筒



井筒法衣店

代表取締役社長 今岡規代

●本社

600-8468

京都市下京区堀川通

新花屋町角(西本願寺前)

Tel 075-351-1234

☎ 0120-075-720

Fax 075-341-7905

●東京店

160-0008

東京都新宿区四谷

三栄町十四番地二一

Tel 03-3358-1500

Fax 03-3359-8902

京

SINCE 1705

都



## 人権擁護啓発活動重点項

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

「三重県人権教育基本方針」より抜粋

令和元年十二月二十日印刷  
令和元年十二月二十日発行

三重県津市一身田町二八一九番地  
電話（〇五九）二三三二―四一七一  
<http://www.senjui.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 宗務院

振替〇〇一五〇〇―一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 相和印刷所

電話（〇五九）二三三二―二〇七〇